

第2問

次の固定資産に関連する取引（×20年4月1日から×21年3月31日までの会計期間）の〔資料〕および〔注意事項〕にもとづいて、問1および問2に答えなさい。

〔資料〕 固定資産関連取引

取引日	摘 要	内 容
4月1日	前 期 繰 越	建物のみ（取得：×02年4月1日 取得価額：¥ 50,000,000 残存価額：ゼロ 耐用年数：50年 償却方法：定額法）
5月6日	国庫補助金受入	備品の購入に先立ち、国から補助金 ¥ 500,000 が交付され、同額が当社の普通預金口座に振り込まれた。
7月1日	備 品 購 入	備品（耐用年数：5年、償却方法：定率法、償却率：40 %）¥ 1,500,000 を購入し、直ちに使用を開始した。代金は小切手を振り出して支払った。
7月2日	圧 縮 記 帳	上記備品に関し、5月6日に受け取った国庫補助金に係る圧縮記帳を直接控除方式にて行った。
9月1日	建物工事完了・引渡	建物の増築および修繕工事が完了し、直ちに使用を開始した。 工事を請け負った業者に工事代金 ¥ 18,000,000 を約束手形を振り出して支払った。そのうち60 %が改良部分と見積もられる。 増築部分の残存価額はゼロ、耐用年数は30年と見積もられ、定額法で減価償却を行う。
12月1日	リ ー ス 取 引 開 始	自動車のリース契約を締結し、直ちに使用を開始した。 ・年間リース料：¥ 720,000（後払い） ・リース期間：5年 ・見積現金購入価額：¥ 3,000,000 ・減価償却：残存価額ゼロ、定額法 ・リース取引の会計処理方法：ファイナンス・リース取引に該当し、利子抜き法を適用する。利息相当額の処理は定額法による。
3月15日	土 地 売 却	子会社に土地（売却時点での帳簿価額：¥ 9,000,000）を ¥ 11,000,000 で売却した。代金は後日2回に分けて受け取ることとした。なお、子会社は当該土地を3月31日時点で保有している。
3月30日	土地代金一部受取	上記の土地代金のうち、¥ 5,500,000 が当社の普通預金口座に振り込まれた。
3月31日	決 算 整 理 手 続	決算に際して、固定資産の減価償却を行う。ただし、期中に取得・増加した資産については月割計算にて減価償却費を算定すること。

〔注意事項〕

1. 固定資産の減価償却に係る記帳は直接法によること。
2. 決算にあたり、英米式決算法にもとづき締め切る。赤字で記入すべき箇所は、そのまま黒字で記入すること。

問1 総勘定元帳における建物勘定、備品勘定およびリース資産勘定への記入を行いなさい。

問2 ×21年3月期の連結財務諸表を作成するにあたり、親子会社間における土地の売買取引に係る連結修正仕訳を、(1)未実現損益の消去と(2)債権債務の相殺消去に分けて示しなさい。なお、連結修正仕訳に用いる勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選び、()の中に記号で答えること。

- | | | | |
|---------|------------|--------------------|------------|
| ア. 土地 | イ. 固定資産売却益 | ウ. 固定資産売却損 | エ. 非支配株主持分 |
| オ. 未収入金 | カ. 未払金 | キ. 非支配株主に帰属する当期純利益 | |